2013 年 6 月 30 日発行

点訳通信

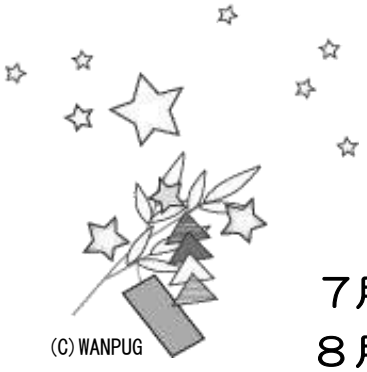
78 号

日本ライトハウス情報文化センター
点字製作係
〒550-0002　大阪市西区江戸堀 1-13-2-8F
TEL 06-6441-1028（点字製作係直通）
TEL 06-6441-0015(代表) FAX 06-6441-0095

ヨーロッパでは、薬のパッケージに点字で薬名などを記載するようになってきているようです。日本では、傷口用テープに点字が書かれているのをみたことがありますが、飲み薬には残念ながらありません。

珍しく風邪が長引いて病院へ行き、薬を処方してもらったときのこと。思ったよりも薬の種類が多く、薬剤師さんからどれが何の薬かを説明してもらうのですが、形状の似たものは時間がたつと記憶もあいまいになってしまい困りました。ジャムやお酒などのパッケージに点字があるように薬にも点字をつけて欲しいですね。

（点字製作係　奥野真里（おくのまり））



【 休館のお知らせ 】

７月１３日（土）　休館（１５日の振替）

８月１３日（火）～１７日（土）　夏期休館

＊ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いいたします。
８月２０日（火）から平常どおり開館します。

目次

◆ 点訳ボランティア新人紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
◆ 「教科書点訳連絡会」セミナー報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・６
◆ 「中国地名の現地読み調べ」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

（点訳通信 59～77 号の目次一覧を添付しています）

●点訳ボランティア新人紹介

４月から新たに６人の方がボランティア活動を開始され、１冊目の図書の点訳にいそしんでおられます。点訳への思いや、日頃の活動の感想を交えながら、自己紹介をしていただきます。

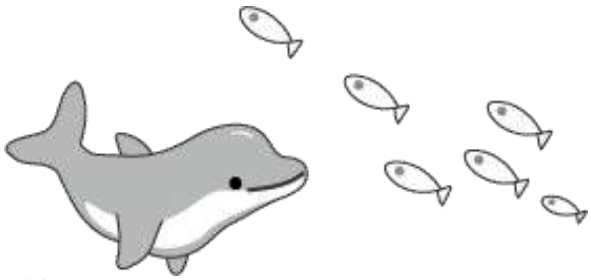
三浦雄一郎さんに勇気をもらう

西山（にしやま）　和子（かずこ）さん　（火曜日）

点訳ボランティアに参加させていただくようになって、２か月がたち、やっと少し雰囲気に慣れ、どのように活動されているのかがわかるようになってまいりました。色々な書物の点訳、図式や表の多い参考書や、絵が主体のマンガ、楽譜など、あらゆるジャンルの書物が対象になっていることに改めて驚いております。

先日、三浦雄一郎さんが８０歳にして、エベレスト登頂を果たされたニュースが話題になりました。　並外れた情熱と努力、常に前向きな思考、どれ一つ取っても、我々凡人と比べようもありませんが、でも人間の可能性って、努力次第で自分が思い込んでいる以上に引き出せるものではないかと、人々に希望を与えてくだったような気がいたします。

こう申しますのも、この年になってから点字を勉強し始め、点訳の作業を手伝わせていただくことになりましたが、果たして、お役に立つところまでついていけるのかしらと、不安に思っておりました。何事も前向きに考え、少しずつでも進んでいければと、ちょっぴり勇気をいただいた次第です。これからもよろしくお願い申し上げます。



(C)WANPUG

ガイド体験会に参加しました

奥川（おくがわ）　紀子（のりこ）さん　（水曜日）

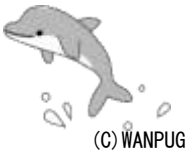
私は以前から、点字を覚えたいと思っていました。

昨年、講習会が開かれ受講することができて嬉しかったです。全くの初心者でしたが、毎週の講習と課題のおかげで、ボランティアに加えていただくことができました。

４月から、先輩ボランティアの方に教わりながら、点訳活動をしています。点訳は考えていた以上に、考えたり調べたりする作業だとわかりました。毎回先輩のみなさんに聞いてばかりでお世話をかけていますが、まずは本１冊点訳を終えるのを目標に、頑張りたいと思います。

先日は、館内の視覚障害者ガイド体験会に参加しました。次回の体験会では盲導犬に会いたいと思います。実は私は動物が苦手で、以前あった機会ではどうしても盲導犬の傍に近づけず、ボランティアを続けることができなかったからです。

これからも点訳活動を続けながら、いろんな研修会に参加していきたいと思います。



情文での活動が刺激に

古林（ふるばやし）　敬子（けいこ）さん　（水曜日）

６か月間の点訳技術講習会の最終日、奥野先生から講習生に「４月から１冊の本を点訳してください」と本を渡され、１人でできるだろうかと身の引き締まる思いでした。講習生同士のじゃんけんによる本選びでしたが、負け続けて当たった初点訳本は、幸運にも私の好きな音楽関係の本で、やる気がわいてきました。

実際に始めるに当たっての不安は、墨点字の読み上げ校正でした。講習会から練習はしていたものの、私のたどたどしい読み上げに水曜グループのベテランの方々は辛抱強く付き合って助けていただきました。おかげで４月から２か月たち、最初は読むことだけに精いっぱいでしたが、少しずつ校正しながら読めるようになってきた気がします。読み上げ校正は大変ですが、精度が高く、より視覚障害の方に寄り添った校正のやり方だと感じています。また、地元グループでも点訳にかかわっていますが、情文での幅広い活動や知識量は、とても刺激になります。まだまだ未熟ですが、グループの方々、職員の方々、どうぞよろしくお願いいたします。

健康で元気に続けたい

浅井（あさい）　良彦（よしひこ）さん　（木曜日）

まずは、自己紹介から。生まれは、四国の徳島。小学３年まで阿波踊りを踊っていました。好きなことは、テニス、読書、オーディオ、ラジコン、鉄道模型、ミクロ経済学の研究（簡単にいえば、株式投資）などエトセトラ。

株式投資のキャリアは４０年以上。結婚資金も新婚旅行の費用も株式投資で捻出？株式投資に成功していれば、財を成し？今頃は世界一周の旅に出ていたことでしょう（笑）。

退職後は、自分の好きなことをし、悠々自適？に過ごそうと思っていましたが、それだけでは何か物足りなさを感じていたときに、目の不自由な方が色んな分野で活躍しておられることを知り、私でも何かお役に立つことができるのではと、点字に関心を持ち、点訳活動をしてみようかなと思いました。どこまでできるのか、未知数ですが、するからには楽しく、健康で元気に、続けたいと思っています。

先輩に教えていただきながら

瀧田（たきた）　愛子（あいこ）さん　（金曜日）

昨年の１０月に、生まれて初めて「点字」に接した私が、今、１冊の本を任されて点訳しているなんて、想像もできませんでした。講習会に参加している期間は、あまりの難しさと、自分自身の記憶力の貧弱さに……ボランティア活動への参加は、あきらめかけていました。それが、奥野さんをはじめ職員の方々の大胆な（？）決断のおかげで、私も、メンバーになることが、できました。本当にうれしく思っています。

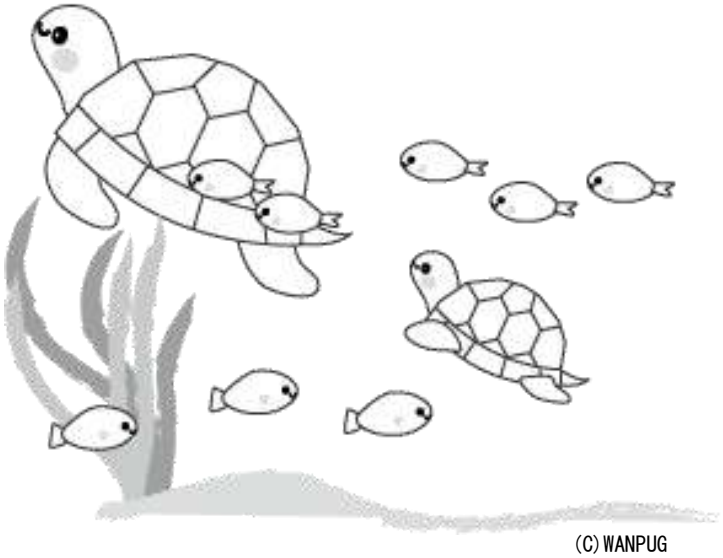
４月から実際に参加して最初に感じたのは、ライトハウスの活動の規模の大きさと、ボランティアの数の多さでした。こうした方々の頑張りがあっての「９０年」なのだと、実感しました。そして、その仲間に入れたことに、誇りを感じました。私の点訳活動は、始まったばかりです。金曜日グループの先輩方に教えていただきながら、しっかり歩んで行きたいと思っています。私が、初めて点訳した本を読んでくださるのは、どんな方だろうと、想像しながら……今日も６点入力に励んでいます。「１００」周年には、少しでも進歩していますように。

仲間の存在が楽しみと励みになる

黒堀（くろほり）　久子（ひさこ）さん　（土曜日）

若い頃、１０年ほど点訳をしていましたが、昨年、再開したいと思って、点訳講習を受けました。３０年のブランクは大きくて、自分でもあきれるくらい、すっかり忘れていました。新しい知識はなかなか頭に入りませんでしたが、点字が好きなので、勉強はとても楽しかったです。おかげさまで、無事にボランティアになることができ、とても喜んでいます。

以前と大きく違うところは、パソコン点訳になっていることです。これは、とてもありがたいことです。また、以前は全くの個人作業でしたが、今は校正をグループで行っている点も違います。週１回の「出勤」は負担になるのでは、と思っていましたが、グループの方々が親切でいい方ばかりだったので、皆さんに会うのが、楽しみになりました。一人でコツコツもいいですが、やはりお仲間がいると、励みになって、それもありがたいことです。できるだけ長く、点訳活動ができたらいいな、と思っています。



(C)WANPUG

●教科書点訳連絡会セミナー報告

確信につながる立体模型と、イメージを導き出す触図の活用について

去る６月８日（土）に、日本点字図書館において、教科書点訳連絡会の平成 25 年度第１回セミナーが開催されました。

「立体物から図への触察学習の可能性を探る～楽しく触れてみよう」をテーマに、独立行政法人特殊教育総合研究所・大内 進（おおうちすすむ）先生と、千葉工業大学の手嶋吉法（てしまよしのり）先生のお話をお聴きし、実際に模型や図に触れながら体感するセミナーとなりました。

（点字製作係　奥野真里）

「触図の理解」

まず、大内先生から読み手の触察技術についてお話しいただきました。

図を学習する際、立体物を触りながら図と合わせて形を確認することは重要です。手・指の感覚、ときには体全体を使って知覚し、能動的に触れながら、形や大きさ、手ざわりなどを認知していきます。

触覚は事物全体を捉えることが難しく、一度に受け取れる情報の範囲が限られているので、手を動かしながら触ると精度が上がるという特性があります。また、視覚に比べると事物を捉える精度が低く、色を識別できないなど、細かな情報を把握する上で制限があるものの、事物そのものを捉えることができ、視覚の錯覚のようにごまかしたりすることができないという特性もあります。

次に、触覚による探索方法にはどのようなものがあるのか紹介されました。

（１）まず全体の情報を把握し、細部の情報を入手する。

（２）パズルのように、部分を統合して全体を把握する。

（３）基準点や枠組みを活用する。例えば、何枚かの図に分割する場合、各図の共通箇所の部分を明らかにする。

（４）植物は根もとから、動物は頭部から触っていくと把握しやすいといった、事物の特性に応じた探索方略がある。

このように、ある程度図から情報を読み取ることは可能ですが、触察から得られる情報には限りがあるので、図で表現しきれない情報を言葉の説明で補うことも必要です。点訳者が文字で図の情報を補足することも重要な役割を果たします。

続いて、分かりやすい触図を作るためのポイントが紹介されました。

・引き出し線は、極力少なくすること。また、同じ図の中で用いられている他の線と触覚的に異なる線種にする。
・図中に入れる言葉がスペース的に入りきらない場合、言葉の一部を短縮した文字を記載する。番号付けなどはしない方が望ましい。
・色分けされているような図を、複雑な面パターンで示さない。
・順序立てて説明する場合は鳥瞰図を使用してもよいが、結果のみを表す場合は鳥瞰図を用いない。

以上、大内先生のお話は触図に関することが中心でしたが、立体物を触察することの必要性についても触れられました。それを受けて、手嶋吉法先生から、立体模型資料の製作について講演をしていただきました。

「万人が分かる立体模型」

手嶋先生は、2006 年に立体模型プロジェクトを立ち上げ、デジタル技術を駆使して視覚障害者が触って分かる物作りを広げることを目的に活動を始められました。

立体模型は、ＶＣＡＤ（３次元作成コンピュータプログラム）を用いて製作します。模型の大きさ、凹凸の度合いを数値化し、数学ソフトを使って積層造形法で正確な形に作り上げていきます。製作した模型の種類は、プランクトンのような微小生物や結晶、地形図、惑星、幾何学模型、絵画、多面体など、多岐にわたります。

当初は視覚障害者のための教材を作ることを目的に始めた活動でしたが、数々の模型を作るうちに、これは誰もが分かる共用模型だと思うようになったとおっしゃっていました。このあと、実際に参加者は様々な立体模型に触れました。

先生の製作された模型の中には、事物の全体模型だけでなく、あえて輪切りにした模型もあり、断面に触れることで内側の部分もしっかり観察できるよう工夫されていました。

触図と立体模型は一見、何の関連性もないように思えますが、実はとても大きな繋がりを持っています。読み手が立体的な形を理解してこそ図が分かることもありますし、図を触るだけではさっぱり事物をイメージできなくても立体物を触れば一目瞭然で理解できることも多々あります。いわば、触覚では立体物は大きな意味をなし、図をスムーズに理解する上での手立てとなっているのです。特に、今回のように手嶋先生が製作された模型は日頃手で触れられないものばかりでした。図を触りイメージするに留まっていたものを具体的な実感へと変えることができ、立体模型の果たす役割を痛感しました。

●「中国地名の現地読み調べ」

「読み方調べ」の姉妹版として、「中国地名の現地読み調べ」を作りました。これはおもにインターネットの「Yahoo 百科事典（小学館『日本大百科全書』）」に掲載された中国の地名のうち、現地読みが記されているものを集め、一部、補足したものです。現在約８２０語を収録。データは点字製作係で使用する各パソコンに入れてあります。また、「漢字の中国読み調べ」も作成中です。地名に使われる漢字の中国語発音を１字ずつカナ表記しました。人名に使われる漢字も加えて、現在７３０字を収録しています。

＊中国語のカナ表記は、本によって、あるいは資料によって微妙に異なっています。その点を十分考慮して参考程度に使ってください。

（点字製作係　小原二三夫）

「中国地名現地読み調べ」の例

愛輝

［現地読み：アイホイ］　中国、黒竜江（こくりゅうこう／ヘイロンチヤン）省北部、黒竜江右岸の旧県。内モンゴル自治区に隣接する。1908 年アイグン（愛琿）直隷庁、1913 年アイグン県、1956 年県となり、…

阿城

［現地読み：アーチョン］　中国、黒竜江（こくりゅうこう／ヘイロンチヤン）省中南部にある県。別名阿什河（あじゅうが）。ハルビンの南東約 50 キロメートル、浜綏（ひんすい）鉄道に沿う。このあたりは７月の気温 …

厦門

［現地読み：シヤメン］　中国南東部、福建（ふっけん／フーチエン）省の南部にあり、台湾海峡に面する地区級市。開元、思明、鼓浪嶼（ころうしょ）（コロンス）、杏林（きょうりん）、湖里、集美、同安の７市区から …

「漢字の中国読み調べ」の例

粤　：ユエ
甸　：ティエン
鑾　：ロワン

(C) WANPUG

点訳通信５９～７７号の目次一覧

（抜けている号は特に点訳表記に関する記事がない号です）

５９号

「の」を含む複合語のマスあけ（一般の名詞、地名、官職名、人名）
仮名か数字か
「・・・して」のマスあけ

６０号

ルビの扱い　→　６１号に一部正誤表
区切り線（中央１２マス線）の使用について

６１号

一般書（日本語）中に出てくる英語以外の外国語の書き方
伏せ字の書き方

６２号（曜日勉強会まとめ）

資料「複合語の切れ続き」について
中点　→　７７号に改訂
「なくなる」のマスあけ
「なさい・なさる」のマスあけ
「上、右、斜め」など、方向を示す語が連続した場合のマスあけ
「・・・の字」のマスあけについて
外字符か外国語引用符か　　→　４２号も参照
囲み記号、とくにカギ類とカッコ類の使い方
コロン、スラッシュの記号の使い方
見出しの書き方
一般書での数学記号
化学式などの書き方　　→　４３号も参照
囲みに使う枠線の使い分け
巻の終わりの表示
２行飛びは必要か
そうろう(候)のマスあけ

６３号

メールアドレス、ＵＲＬ　→　５７号も参照

６４号

点訳表記について
　新館の名称表記
　読み方の判断に迷ったとき
　目次について
　数字の書き方について
　本文最後の「完」等について

６７号

点訳者挿入符について

６８号
点訳図書１巻あたりのページ数について

６９号
「漢字や仮名で書き表わされた単位」の書き方の変更について

７０号
方言の分かち書きについて

７２号
文脈で読みが違う漢字

７３号
奥付の書き方（改訂）と点訳例

７７号
中点の扱いに関する改訂規則